



令和4年3月2日

## 在宅酸素療法による酸素吸入器使用中の火災にご注意を！

～ 使用中の喫煙行為は大変危険です!! ～

呼吸器疾患により、体内に酸素を十分に取り込めない患者が、在宅酸素療法で酸素吸入器を使用中の火災により、昨年は3件（死者1人、負傷者1人）発生し、令和4年（2月28日現在）も1件（負傷者1人）発生しています。

酸素吸入器使用中の火災は、規模は小さくても死傷者が発生しやすい火災です。使用中は、吸入器にたばこやライターなどの火を近づけたり、近くで火気を使用しないように注意しましょう。

### 【酸素吸入器とは】

酸素吸入器とは、体内に酸素を十分に取り込めない患者に対して、呼吸を助けるために酸素を吸わせる機器です。鼻カニューレというチューブを鼻に入れ酸素を吸入します。

### 【高濃度酸素の危険性】

酸素は燃焼の三要素（点火源、可燃性物質、酸素）の1つで、酸素の濃度が高くなると燃焼は激しくなります。普通、炎を出さずに燃えるたばこや線香も、酸素濃度が高くなると炎を出して燃えます。

### 【火災の特徴】

- 1 ライターの他、たばこや線香といった微小火源であっても容易に着火します。
- 2 ひとたび鼻カニューレに着火すると、チューブの中を炎が導火線のように燃え進みます。
- 3 酸素流量が多くなると燃焼がさらに激しくなり、チューブが溶解・破断して、着衣に燃え移る危険性が高まり、火災による死傷者が発生しやすくなります。

### 【火災を防ぐために】

- 1 酸素吸入器を使用したままの喫煙は絶対にしないようにしましょう。
- 2 酸素吸入器使用中は、吸入器に火気を近づけたり、近くで火気を使用しないようにしましょう。
- 3 本人だけではなく、周囲の人も火気の使用に十分注意しましょう。

※ 詳細は、別紙資料を参照してください。

※ 実験映像と写真を希望する社は、広報課報道係までご連絡ください。

問合せ先

東京消防庁代	電話 3212-2111
予防部調査課	内線 5066 5068
防災部防災安全課	内線 4192 4195
広報課報道係	内線 2345~2350

## 【別紙資料】

### 1 過去10年間の年別発生状況

	合計	建 物					焼損 床面積 (㎡)	焼損 表面積 (㎡)	死者 (人)	負傷者 (人)
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや				
合 計	15	15	-	-	1	14	1	-	2	15
平成 24 年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-
平成 25 年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成 26 年	2	2	-	-	1	1	1	-	1	2
平成 27 年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	1
平成 28 年	4	4	-	-	-	4	-	-	-	4
平成 29 年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	1
平成 30 年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	3
令和 元年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	1
令和 2 年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	2
令和 3 年	3	3	-	-	-	3	-	-	1	1

令和 4 年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	1
--------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

注1 合計欄の数値は、平成24年から令和3年までの合計値です。

2 令和3年及び令和4年の数値は速報値で、後日変更される場合があります。

### 2 過去10年間の受傷状況

年 齢 区 分	死 者	負 傷 者					
		小 計	重 篤	重 症	中 等 症	軽 症	
合 計	2	15	2	3	4	6	
未 成 年 (0 歳 ~ 19 歳)	-	1	-	-	-	1	
成 人 (20 歳 ~ 64 歳)	-	6	-	2	1	3	
高 齢 者	前 期 高 齢 者 (65 歳 ~ 74 歳)	1	4	-	-	2	2
	後 期 高 齢 者 (75 歳 以上)	1	4	2	1	1	-

注1 合計欄の数値は、平成24年から令和3年までの合計値です。

2 令和3年の数値は速報値で、後日変更される場合があります。

## 事例1 「在宅酸素吸入中に出火し死者が発生した火災」

出火時分 令和3年11月 10時ごろ

用途等 長屋兼共同住宅

防火造 2/0 延 200 m<sup>2</sup>

被害状況 建物ぼや1棟 酸素濃縮装置送気用ホース1本、敷物若干焼損 死者1人  
概要

この火災は、長屋兼共同住宅の1階の居室から出火したものです。

出火原因は、居住者（高齢者）がベッド上で酸素吸入器を使用中に喫煙したたばこ又はたばこの火種が送気用ホース付近に落下したため、火種が送気用ホースに着火し出火したものです。その後、焼損により濃縮酸素が漏洩したことから、送気用ホースに伝わり、激しく延焼しました。

連絡を受けた介護支援専門員が居住者宅を訪問したところ、居室内は煙が充満して、ゴムの焼けたような臭いが漂い、ベッド上に倒れている居住者を発見して、119番通報をしています。

なお、この火災で死者1人が発生しています。

## 事例2 「在宅酸素吸入中に出火し負傷者が発生した火災」

出火時分 令和3年4月 10時ごろ

用途等 複合用途（有料老人ホーム・老人サービス）

耐火造 2/0 延 1,200 m<sup>2</sup>

被害状況 建物ぼや1棟 鼻カニューレ及び床若干焼損 負傷者1人  
概要

この火災は、複合用途の2階有料老人ホームの居室から出火したものです。

出火原因は、入居者（高齢者）が、酸素吸入器を使用したまま、たばこを吸うためライターを点けたところ、ライターの火が鼻カニューレに着火し出火したものです。

訪問看護師が訪問したところ、居室のベッドに腰かけて俯いている入居者を発見したため、施設職員に119番通報依頼をしています。

なお、この火災で居住者は火傷（重篤）を負っています。



写真1 居室の焼損状況



写真2 鼻カニューレ焼損状況

### 事例3 「酸素吸入器の高濃度酸素により延焼拡大した火災」

出火時分 令和2年4月 7時ごろ

用途等 診療所兼住宅 耐火造2/0 延100 m<sup>2</sup>

被害状況 建物ぼや1棟 酸素吸入チューブ及び布団等若干焼損 負傷者2人

#### 概要

この火災は、診療所兼住宅の1階住宅の居室から出火したものです。

出火原因は、居住者（高齢者）が、マッチを使用した際に掛け布団から出火し、その後、酸素吸入チューブに着火し、ホース内の高濃度酸素により延焼拡大したものです。

2階寝室にいた居住者の家族は、住宅用火災警報器の鳴動音がしたため1階へ確認に行くと、居住者がいる居室から炎が上がっているのを確認したため、毛布を被せて消火しています。

通報は、住宅用火災警報器の作動を確認した警備会社のコールセンターから119番通報しています。

なお、この火災で負傷者2人が発生し、そのうち1人が火傷(重症)を負っています。

### 事例4 「在宅酸素吸入中に出火し死者が発生した火災」

出火時分 平成26年10月 13時ごろ

用途等 共同住宅 耐火造8/0 延6,550 m<sup>2</sup>

被害状況 建物部分焼1棟 布団若干等焼損 死者1人

#### 概要

この火災は、共同住宅の7階居室から出火したものです。

出火原因は、居住者（高齢者）が自宅の居室で在宅用酸素吸入器から酸素吸入チューブを利用して酸素吸入中、たばこに火を点けようとライターを近づけたところ、吸入チューブからの濃縮酸素によりライターの炎が大きくなり、鼻カニューレに接炎し、さらに着衣に着火したものと推定されます。

共同住宅の隣人が焦げ臭いにおい気づき、共用廊下に出たところ火元玄関付近から煙が出ているのを発見し、また、住宅用火災警報器の鳴動も確認したことから119番通報しています。

なお、この火災で死者1人が発生しています。